

9月22日（月）

ハンブルク市庁舎視察

翌日のハンブルク市議会、ハンブルク市長への訪問を前に、市庁舎を視察させていただいた。ハンブルク市はドイツ北部、北海にそそぐエルベ川河岸に位置し、アルスター湖畔の緑豊かな大都市として「水と緑の都」とも呼ばれるドイツ第2の都市である。そのハンブルク市の市庁舎は、ネオ・ルネッサンス様式の美しい建物で、まちのシンボルの1つとなっている。

ハンブルク市庁舎では、カプヘングストハンブルク市議会儀典長の出迎えを受け、歓迎の言葉をいただいた。

【カプヘングスト儀典長 挨拶要旨】

ようこそハンブルク市庁舎へ。この建物はドイツでは珍しく、議会と政府が1つに集約されており、ハンブルクの特徴となっている。ハンブルク人の特徴は質素で控えめなところであるが、この市庁舎は少し違う。この市庁舎は、かつてドイツ皇帝の支配を受けず、自由ハンザ都市として常に自由であったことの象徴として建てられたものである。明日、改めてご訪問いただくが、まずは本日、この市庁舎をご覧いただきたい。



ハンブルク市庁舎前で

その後、市職員のアリヤジック氏の案内で市庁舎を視察した。説明内容は次のとおり。

- ・市庁舎は1886年から97年まで11年間かけて建築された。
- ・前の市庁舎は、現市庁舎から徒歩で5分ほどの位置にあったが、1842年の大火災により焼失した。現市庁舎にはフェニックスホール（不死鳥の部屋）と呼ばれる部屋がある。大火災当時のハンブルク市の地図があり、大火災により焼失した部分が赤く塗られている。不死鳥が灰の中からよみがえるようにハンブルク市も大火災から復興したことを示した部屋である。
- ・第2次世界大戦の折もまわりは空爆の被害を受けたが、この建物は損傷なくそのまま残っており、その点でも貴重である。
- ・議会は2週間に1度、水曜日に開かれる。ハンブルク市議会の特徴は、アフターワーク議会と呼ばれ、議員は別に本業をもっており、本業を終えた後に議会を開くため、開会は15時からである。
- ・かつての議場は、壁一面に絵が描かれていたが、ヒトラー政権時にすべて白く塗

りつぶされた。今、その白い塗料をはがし、絵を取り戻そうと作業中である。

・ハンブルクはお客様をお迎えするときも階下へ降りて迎えるのではなく、上で待っている。これは自由ハンザ都市ハンブルク人の意地として、構えて待っているというのが風習として残っており、明日もフランスの首相がいらっしゃるが、この階上でお迎えすることになる。



ハンブルク市議会議場



不死鳥の間のレリーフ

ハンブルク商業会議所共催ネットワーキングランチ

市庁舎より徒歩にてハンブルク商業会議所（イノベーション・キャンパス）に移動し、大阪市とハンブルク商業会議所共催のネットワーキングランチに参加した。

同所では、当日午前より大阪・ハンブルク友好都市提携25周年を記念した再生可能エネルギーをテーマとしたシンポジウムが開かれ、大阪市からも経済戦略局や各企業等がプレゼンテーションを行った。ネットワーキングランチはそのシンポジウムの第2部として、シンポジウム参加者の人脈づくり、意見交換を通じた大阪・ハンブルク両市の経済交流の推進を目的に開かれたものである。

ネットワーキングランチでは、和やかな雰囲気の中、ハンブルク商業会議所のレンゲフェルト副CEOをはじめ、参加企業の方々との意見交換が行われ、最後に大阪市区代表団を代表し副議長が謝辞を述べ、会は終了した。

【杉田市会副議長 挨拶要旨】

このたび大阪・ハンブルク友好都市提携25周年という節目の年ということで、大阪市区代表団とともに大阪市区代表団として訪問させていただいた。ご臨席の皆様方におかれては、ご多忙中にもかかわらず、このような機会を設けていただき、深く感謝する。

本日の意見交換により、さらに両市間の交流を深めるとともに、大阪市区とハンブルク市がそれぞれの得意分野を生かした提携を行うなど、一層良好な関係を築いていく

きっかけとなればと願っている。



挨拶を述べる杉田副議長

ハーフェンシティ視察

ハーフェンシティは、エルベ川北岸の再開発地域である。市の中心部からも近く、まずは、大阪通り（大阪アレー）に位置するサスティナブル・パビリオンを訪問し、ハーフェンシティ有限会社シュッツ＝ベルント副社長及びカーステンセン副部長の出迎えを受け、副社長よりご挨拶と説明をいただいた。

なお、大阪アレーとは、大阪・ハンブルク友好都市提携20周年を記念して、ハーフェンシティの通りの1つが命名されたものである。



大阪アレー

【シュッツ＝ベルント副社長 挨拶・説明要旨】

ハーフェンシティへようこそ。両市の友好都市提携25周年という節目の年に皆様にお越しいただいたことは大変光栄なことである。

ハーフェンシティ有限会社では、インフラ整備、不動産の売却等を行っている。ハンブルク市が関連する資産価値は15億ユーロ、民間関連のそれは8～10億ユーロに及ぶ。

都市の開発においては、民間企業に様々な要望をしており、その1つがサスティナブル（持続可能性）ということである。経済的な利益追求はもちろんだが、政治的な持続可能性・環境に配慮した開発に気を配り、経済性と持続可能性、双方を両立した開発を行っている。

現在、開発の進捗率は50%である。開発においては、持続可能性や環境への配慮といったコンセプトに沿ったガイドラインを作成し、そのガイドラインに同意をいただいた上で民間企業に土地を売却し、開発を進めている。経済性という観点を抜きにしては、開発は不可能であるが、その経済性が見込めない場合にあっては、市がフォローしていく必要がある。例えばエルプフィルハーモニーという建物が2017年に完成予定であるが、これがその好例である。建物自体の経済性よりも他の面も含めハンブルク市にとって将来大きな利益を生むであろうと考え投資を行ってきた。



シュッツ＝ベルント副社長から説明聴取

ともに住民からの要望等もお聞きしている。

この建物自体も持続可能性を考慮したものとなっている。今は情報発信拠点であるが、個人的な推察ではあるが、ここは近い将来ハンブルクでも随一のすばらしいカクテルバーになるのではないかと思う。ぜひ5年後、友好都市提携30周年には再びお越しいただき、一緒にカクテルが飲めれば嬉しい限りだ。

説明の後、徒歩にて、ハーフェンシティ内の代表的な建物、港湾施設、公園をめぐりながら、カーステンセン副部長より具体的な説明を受けた。風が強く曇りがちではあったが、熱心に話をしていただいた。教育環境や防災対策等、代表団からの質疑に対する回答も含め、説明は次のとおり。

【カーステンセン副部長 説明要旨】

現在、50%の開発度合で、2000人の住人がおり、9000人が外から通勤してきている。将来的な目標としては、住人が12000人、通勤者45000人を目指している。

歴史的建物がご覧いただけると思うが、この歴史的建物と現在の建物との調和もコンセプトの1つである。歴史と伝統を重んじながらも革新的な技術を導入するというものである。旧市街は6～8階建てであるので、基本的にはそれに準じ、所々にランドマークとして高層建築を置いている。

ハーフェンシティは港湾地域に位置するため高潮等洪水被害も予想され、開発にお

ハーフェンシティでは様々な分野が入り混じった複雑な利用がされている。オフィス、住宅、商店、文化施設等様々なものがあり、これらが機能するためには単に投資家の需要を満たすだけでなく、実際に住民がここに住みたいと思ってもらえるまちづくりを進めることが必要である。そのためには情報公開が重要で、ここサスティナブル・パビリオンも情報発信拠点の1つである。住民参加イベントを開き、開発のステップを説明すると

いては4.5mの水位差を考慮し、地上階を海拔8mのところにかけている。

開発にあたり、オフィスや住宅が混在する多目的利用について独自の認定基準を設けた。

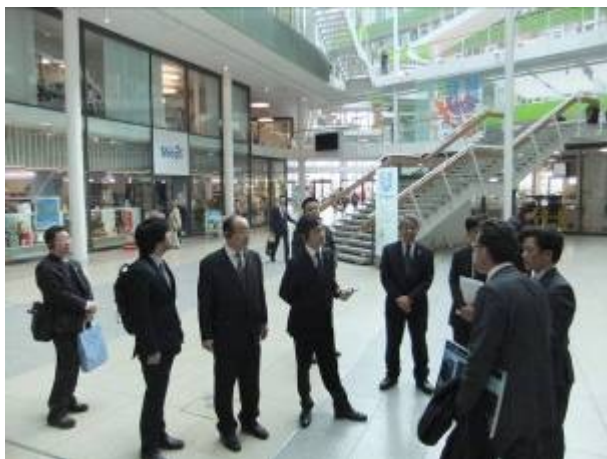
オフィスと住宅が同じ土地の上に存在するユニリーバ社の建物は、会社のニーズにあった建物とするのに苦心した。当初ユニリーバ社はコンセプトに対して懐疑的で、一部を公共的に使えるよう提案した際には、さらに懐疑的であった。しかし結果、オフィス棟と住宅棟と公共的広場が混在するこの建物ができ、社員同士のふれあいが増えたと聞いている。この建物は雨水利用や紙の消費を抑えリサイクルできるシステムを導入するなど環境に配慮し、かつコストを抑えたものとなっている。

教育施設としては、現在、小学校が1つ、公立大学が1つ、私立大学が3つ存在する。中高一貫校を1つ増やしたいと考えている。

小学校の特徴として、ハーフェンシティに住む子ども、他地域から来る子ども、通勤者の子どもなど様々な地域の子どもがいることが挙げられる。社会保障を受けている子どももいる。社会的な持続可能性を考慮し意図的に行っていることである。

公園は、一般的に1㎡当たり0.4ユーロの維持費であるが、こちらにあるものはその15倍の1㎡当たり6ユーロのコストがかかっている。裕福でない層の人も使用する駅の付近にあるため、社会的インフラの1つとして投資をしているものだ。

港湾は、大型観光客船も接岸でき、10年前は30隻だったが、現在では100隻の客船がハンブルク市を訪れる。



ユニリーバ社建物内



コンテナ施設

ハンブルク風力エネルギー国際総合展前夜祭

翌日9月23日から4日間にわたりハンブルク市の国際見本市&コンベンション会場にて開催されるハンブルク風力エネルギー国際総合展を記念して、ハンブルク市庁舎の「大祝祭の間」にて、前夜祭が開催された。開会に先立ち、村上副市長、杉田副

議長はVIPレセプションに参加。主要な参加者との顔合わせが行われた。その後会場では最初にパフォーマンスが披露され、オラフ・ショルツ ハンブルク市第一市長、トルステン・アルビツヒ シュレスビツヒ・ホルシュタイン州首相、ベルント・アウフデアハイデ ハンブルク見本市会社CEO、ズィグマー・ガブリエル ドイツ連邦経済・エネルギー大臣の挨拶と続き、最後にトルネード・ハンターと呼ばれるグレッグ・ジョンソン氏から竜巻をはじめとする大自然の風の力に関するプレゼンテーションが行われた。式典終了後には、市庁舎地下にあるレストランに場所を移し、約500人が参加して祝賀交流会が行われた。

9月23日（火）

ハンブルク市議会表敬訪問

ハンブルク市庁舎に着くとセンターポールにはこいのぼりが掲げられていた。こいのぼりが掲げられた市庁舎の前で記念撮影の後、ハンブルク市議会のシーラ副議長を表敬訪問した。シーラ副議長、杉田副議長、村上副市長の挨拶の後、環境問題や災害対策、議会の状況などについて意見交換を行った。



ハンブルク市庁舎に掲揚されたこいのぼりの前で

【シーラ副議長 挨拶要旨】

大阪と自由ハンザ都市ハンブルクとの友好関係は、今年をもって25周年を迎えた。ともに世界有数の港町に暮らしているものとして、とても誇りに思う。

大阪は今では重要な産業の中心地の1つであり、欠かせない貿易のハブとして機能しており、日本経済を大きく支えている。2012年ハンブルク市議会の代表団が訪問した際も含め、数々の訪問では、経済が大きなテーマとして取り上げられてきた。

100社にも上る日本企業の内、25社がヨーロッパ本部を、35社がドイツ本部を置くハンブルクは欧州市場でも有数の日本の経済活動の中心地である。ハンブルクの企業もまた日本と深い交流関係にあり、168社が製造施設や支店を置き、あるいは投資という形で、日本市場に加わっている。

大阪とハンブルクの関係は、政治や経済の利益追求にとどまらないことは私どもも大変うれしく感じる場所である。数々の協会や団体がその活動を通じて、お互いの

文化に対する理解を深めるために大きく貢献されている。中でも毎年開催されるさくら祭りはハンブルク市民の心に深く根付いている。

さる5月には友好関係25周年を迎えたことをもって、大阪の市民からハンブルク市に大きなこいのぼりの授与式が行われた。

大阪とハンブルクの友好都市関係は政治的、経済的、文化的そして社会的な面における交流を通じて、これからもさらなる成長を遂げると確信している。これからもお互いの力を合わせて両市の市民のために努力してまいりたいと存じる。

【杉田副議長 挨拶要旨】

こいのぼりでの歓迎大変ありがたく存ずる。温かい歓迎に心から感謝申しあげる。

このたび記念すべき大阪・ハンブルク友好都市提携25周年に大阪市会を代表して貴議会を訪問できたことを大変光栄に思う。また提携25周年を、ここハンブルクの地でもとお祝いすることができ、さらに、副議長をはじめ議員の皆様方と交流を深める機会を得たことはこの上ない喜びである。

両市の25年間にわたる交流の歴史は多くの分野で活発に展開されてきた。私どもはこの歴史を誇りに思うとともにさらなる発展に努めていかなければならないと考える。

21日にハンブルクに到着し、各訪問先では非常に温かくお迎えいただき、人々の温かい人柄を体感することができた。また、ハンブルク空港から市内に向かう折、まず驚いたことは緑の多さだった。この緑は第2次世界大戦で9割以上焼失したが、その後70年間にわたり木を育て、こうして青々と茂っているとの話を聞き大変感動したところである。大阪は人情にあふれた温かいまちであり、両市の市民が今まで以上に交流を深め、友好関係が一層進展することを期待している。

【村上副市長 挨拶要旨】

昨日、25周年を記念した経済シンポジウム、観光セミナーを行わせていただいた。たくさんの方に参加いただき、熱心にご議論いただいた。温かいおもてなしに感謝する。

ハンブルクは環境先進都市としてヨーロッパ環境首都として位置づけられ、我々も環境面の取り組みについて大変関心を持っている。

今日、環境・エネルギー問題は、全世界的な問題であり、私どもとしても取り組んでいかなければならない課題だと考えている。ハンブルクの先進的な取り組みを参考として、大阪市としても真剣に取り組んでいく。

これまで培ってきた25年間の友好関係を、引き続き発展させていくことを願っている。

【意見交換概要】

ハンブルクでも環境問題に悩まされている。港湾地区の水位の上昇なども、地球温暖化などの環境への影響によるものと感じている。できることは全体的に見れば小さ

なことかもしれないが、それでも二酸化炭素の排出削減に努めていきたい。

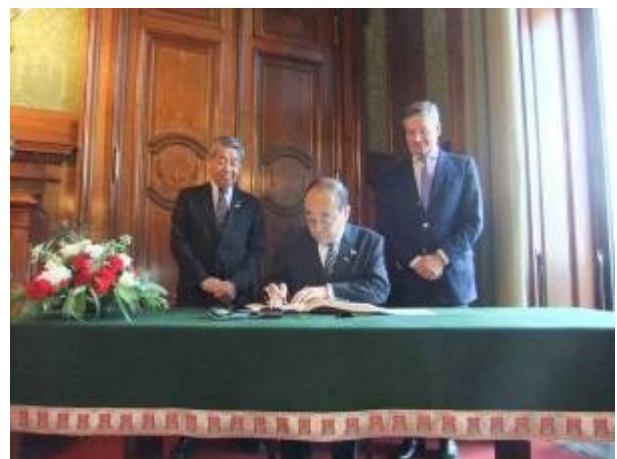
ハンブルクで最後に大きな自然災害を受けたのが、1962年の大洪水のときである。この時は、当時ハンブルク州の大臣だったシュミット氏（のちのドイツ首相）が、憲法違反の懸念を恐れず行動を起こし、市民を守ってくれた。シュミット元首相はハンブルク出身で、とても誇りに思う。これからも災害に対して、責任を持って対処していきたい。

ハンブルク市議会は、若い議員も多い。時として世代的なギャップから論争になることもあるが、それもよいことと考える。ハンブルクはドイツ唯一のアフターワーク議会で、弁護士や医者もいる。目標としてはフルタイムで議会を行うこともかもしれないが、これまでこのアフターワーク議会でもうまくやってきた。これは誇るべきことだと思う。

意見交換の後、村上副市長、杉田副議長がゲストブックに記帳を行い、表敬は終了した。



挨拶されるシーラ副議長



ゲストブックへの記帳

ハンブルク市表敬訪問

続いて、「市長の間」に場所を移し、オラフ・ショルツ ハンブルク市第一市長を表敬訪問した。

【ショルツ第一市長 挨拶要旨】

皆様にお目にかかれて光栄である。このハンブルク滞在が快適なものとなるよう、また、この滞在を通じ大阪とハンブルクの交流関係がさらに深まるよう祈念している。

ハンブルクは航空産業が盛んな都市である。また今回、風力エネルギーという未来のエネルギーの前夜祭に皆様をご招待させていただき光栄を得た。ハンブルクが流通の中心としての港だけでなく、他にも見所があることがおわかりいただけると思う。

【村上副市長 挨拶要旨】

本日は非常にお忙しい中、私ども大阪市代表团及び大阪市会代表团をこのように温かくお迎えいただき心からお礼申しあげる。

5年前と比べ、まちがますます美しくなっている。

5年前の友好都市提携20周年を記念して命名されたハーフェンシティの大阪アレーを昨日訪問した。大変光栄に思う。大阪市民を代表して改めてお礼申しあげる。

前は計画段階で、あんなに立派になるとは思わなかった。現在50%の進捗のようだが完成を楽しみにしている。計画を着実に進めてこられたことに敬意を表する。

環境先進都市として大阪も見習うことがあると思う。

25周年を機に友好がこれからも続くよう願う。

【杉田副議長 挨拶要旨】

ご多忙中にもかかわらず、私どもを温かくお迎えいただき厚くお礼申しあげる。皆様とこうしてお会いできたことを大変うれしく存ずる。

両市は1989年に友好都市提携を行って以来、あらゆる分野で交流を深め、本年めでたく25周年という記念すべき年を迎えることができた。25周年の節目を迎えるにあたり、両市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

大阪市においても、まちづくりや集客観光施策は重要な市政課題であり、先進的な取り組み事例をぜひ参考にさせていただきたい。

また次の機会には、ぜひ大阪にお越しいただき、大阪の魅力も存分に味わっていただきたい。

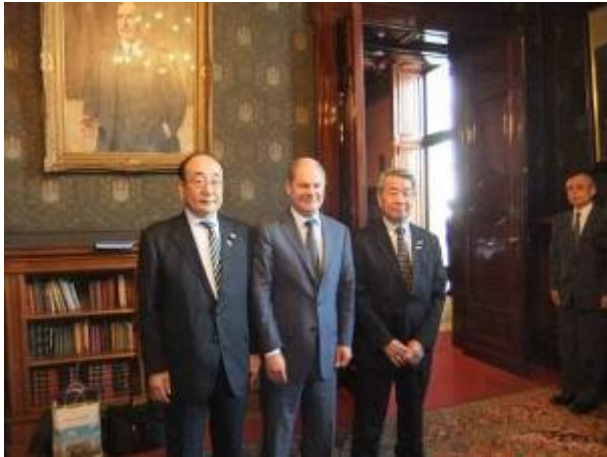
【ショルツ第一市長】

世界に友人がいることは都市にとって有意義なことである。互いに学びあう環境を整えることが大切だと思う。

都市の発展には長期的視野が必要である。世界中で都市が膨張傾向にある。都市部に住もうとする人々が増える中、どんなまちづくりをするかは長期的な視野をもって考えていく必要がある。

このたび25周年を迎えたところだが、さらに先の25周年を見据えていこう。

最後にゴールデンプックと呼ばれる記帳簿に記帳を行い、表敬は終了した。



シヨルツ市長と



ゴールドデブックへの記帳

友好都市提携 25 周年記念レセプション

議会、市長への表敬に引き続き、市庁舎内にて友好都市提携25周年記念レセプションが執り行われた。

シュターペルフェルト第二市長、村上副市長、杉田副議長が挨拶し、外務省の中根駐ドイツ日本国大使、橋丸独日協会ハンブルク会長、さくらのプリンセスといった方々を交え、総勢50名ほどで、軽食をとりつつ交流を深めた。

【シュターペルフェルト第二市長 挨拶要旨】



挨拶されるシュターペルフェルト第二市長

ハンブルク市を代表して皆様をこの市庁舎に歓迎する。両市の友好提携25周年という記念すべき行事をともに祝っていただくために遠路はるばる大阪からいらっしゃった皆様をお迎えできることを大変光栄に思う。

今日、100社の日本企業がこのハンブルクに拠点を置き、6000人に及ぶ雇用を生み出している。同時に540社のハンブルクの企業が日本との取引をおこなっており、このうち35社は日本に支社を置いている。

これらはすべて経済中心のまちであるハンブルクにおける日本企業の重要性を示すものである。

経済的な結びつき以外でも、ハンブルクの日本人社会は高い地位を誇っており、ハンブルクにとってなくてはならない存在である。日本文化はハンブルク人の生活の一部となっており、特に50年近くにわたり、市民の楽しみとなっている5月のさくら祭

りはいかに両国間の結びつきが強いのか、いかに生き生きとしているかを示す象徴とも言える。祭りの終幕を飾るのは、ハンブルク市でも屈指の大花火大会で、ハンブルクの春の夜空を彩る。このすばらしい伝統はハンブルク日本人会に代表される在ハンブルクの日本人の方々のご尽力のたまものである。

経済・文化における両市の交流は活発かつ多種多様で、数多くの活動や交流事業が古くから絶え間なく続いてきた。その好例がドイツでもっとも古い日本学の研究機関であるハンブルク大学日本学科と大阪市立大学との提携である。さらに交流における重要な存在としては独日協会をはじめとする各種団体があり、その活発な活動によって、両市の友好関係が25年にわたり、生き生きとしたものにしてきている。

これらの交流に携わる方々の貢献に対して感謝の念に堪えない。彼らの活動は今後とも両市の活動が、また生き生きとしたものになるためには欠かせないものである。先日、大阪市民の方々から友好を記念してハンブルクに贈られたこいのぼりが玄関にも掲げられているが、こうした生き生きとした発展をこれからも続けたい。両市の提携が末永く存続し、友好関係が一層深まること、活発な対話や学術交流、そして日本の方々や日本の文化とのふれあいの場がさらに増していくことを祈念する。

【村上副市長 挨拶要旨】

本日は大阪・ハンブルク友好都市提携25周年記念レセプションをこのすばらしいハンブルク市庁舎において開催いただいたことに心より感謝する。

25年にわたりハンブルク市との間にこのように充実した友好都市関係を継続してこられたことを大変光栄に存ずる。

今後さらに、経済・文化・学術・観光・環境・エネルギー政策など様々な分野で互恵的な関係を推進してまいりたい。

大阪とハンブルクは共通点が多い。まず水の都であるということ。それから食べ物が非常においしい食の都であること。

今後ますます大阪とハンブルク、ひいては日本とドイツとの友好関係の推進に力をつくしてまいりたいと思う。

【杉田副議長 挨拶要旨】

先ほどお話にもあったが、市庁舎前のこいのぼりの掲揚、ありがたく存ずる。記念撮影もさせていただいた。温かいおもてなしに感謝する。

本日は、お忙しい中、このように盛大なレセプションを開催していただき心からお礼申しあげる。また皆様方には、平素から両市の友好関係の進展に多大なるご尽力をたまわり厚くお礼申しあげる。

これまで両市が積み重ねてきた交流が、25周年という節目を迎えたことは誠に意義深く、このような記念レセプションがここハンブルクの地で開催され、ともにお祝いできることは大変喜ばしい限りである。

この25周年を機に両市の交流をますます緊密なものとし、皆様方とともに日本とド

イツの友好協力関係の発展に大きく寄与していきたいと思う。



挨拶する杉田副議長

ハンブルク風力エネルギー国際総合展視察

ハンブルク風力エネルギー国際総合展は、2年に1度開催される世界最大級の専門見本市でハンブルクでは今回が初開催。展示面積は50000㎡にも及ぶ。1200社を超える出展社が一堂に会し、風力エネルギーをはじめ革新的な環境技術やソリューションが披露される。

会場である国際見本市&コンベンション会場前には、実際の風力発電用風車の羽が展示されており、その大きさに驚いた。会場では、アウフデアハイデハンブルク見本市会社CEOに出迎えていただいた上ご挨拶をいただき、その後担当者の案内で、日本も関連する主なブースを6つ視察した。

視察したのは、世界63カ国で導入されている風力発電機的设计、製造、販売を行うデンマークのヴェスタス社。

日本でも幅広い分野で数多くの採用実績のあるボッシュ・グループの一翼を担うボッシュ・レックスロス社。

ハンブルク市が51%の株式を保有し、産学官により設立されたリニューアブル・エネルギー・クラスター・ハンブルク社。同社はハンブルクを再生エネルギーの世界の中心地とすることを目標に活動し、エンジニア、科学者、政治家が協力し事業を進めている。

水素燃料電池及び高圧水素貯蔵タンクを自社開発し、今回、一般商品化をはじめて打ち出したトヨタ自動車株式会社。水素燃料自動車には実際に乗車させていただいた。その静かさと加速性能に驚かされた。

大阪市西区に本社を置くベアリングメーカーであるNTN株式会社。風車を回すためのベアリングの大きさとその技術力には目を見張るものがあった。

最後に、大阪市ブース。大阪の企業である住友電気工業株式会社、八洲電業株式会社と共同出展している。大阪市ブースでは大阪企業の技術、商品について展示を視察するとともに、市内湾岸部における環境・エネルギー関連の取り組みについて説明を受けた。

かなり広い展示場で、一日では決してまわりきれものではなかったが、多くの人を訪れており、あちこちで商談風景も見受けられるなど、その活気が感じられた。



アフデアハイデ CEO よりご挨拶



大阪市ブースの前で

大阪・ハンブルク交流レセプション

ハンブルク市内の高級住宅地区にある、ビジネス・クラブ・ハンブルクにて、ハンブルク経済振興公社、在ハンブルク領事事務所主催の大阪・ハンブルク交流レセプションが行われた。

在ハンブルク日系企業関係者など70名以上の出席の中、マッツ ハンブルク経済振興公社国際部長、中根駐ドイツ日本国大使、アルデヴィル ハンブルク経済振興公社CEO、村上副市長、杉田副議長の挨拶の後、ハンブルク音楽学校による演奏、意見交換と続きマッツ国際部長の挨拶にて会は終了した。

挨拶の中では、ハンブルクが2024年のオリンピックに立候補を予定しているなどの話もあり、大阪市としてもエールをお贈りした。

【村上副市長 挨拶要旨】

すばらしいレセプションを開催していただき心より感謝申しあげる。先ほどオリンピックのお話があったが、私としてもハンブルクでオリンピックが開催されることを応援するとともに楽しみにしている。

これからも幅広い分野で友情が深まり、手を携えてともに歩んでいきたいと思う。

【杉田副議長 挨拶要旨】

このような機会を与えていただき感謝するとともに、皆様にお会いできたこと大変うれしく存ずる。

1989年の友好都市提携締結以来、様々な分野で交流を積み重ね、友好関係を築いてきたが、この25周年を機に両市の関係をますます緊密なものとし、日本とドイツとの友好協力関係の発展に皆様とともに寄与していきたいと思う。

21日にハンブルクに到着以降、各地で様々な方々と交流させていただいた。両市の友好関係の進展を図ることができたことに大変満足している。

またの機会には、ぜひ大阪にお越しいただき、大阪の魅力も存分に味わっていただきたいと存ずる。



挨拶する杉田副議長

9月24日（水）

エルベ川河岸視察

エルベ川はハンブルクを東西に流れる大きな川である。市の中心部からも近いこともあり、交通網の一部としてエルベ川が利用され定期船が運航している。この定期船はハンブルク交通局が関連するHADAGという会社が運営し、電車やバスと同じように利用できる。

この定期船に、ザンクト・パウリ棧橋駅から在ハンブルク領事事務所の深川事務所長、同領事事務所の田巻氏とともに乗船し、ハーフェンシティの象徴的な建物であるエルプフィルハーモニーや構造設計賞も受賞しているオフィスビルであるドックランド、世界最大級の潜水艦をそのまま博物館としたUボート博物館、ハンブルク港貿易を支えるコンテナ荷揚げ施設など、ハンブルクの街並みや施設を田巻氏の説明を受けながら視察した。

船内には切符の自動販売機や停船用ボタンもあり、各駅に停船するなどバスとほとんど変わりはなく、ハンブルク市民の足として利用されているようだった。当日は児童・生徒たちも多数乗船しており、オープンデッキでは鳥の糞に大騒ぎするなどほほえましく、またハンブルクの日常的な面も垣間見え、往復1時間弱の乗船ではあったが有意義な時間であった。



オープンデッキの様子



説明聴取の様子